

支援プログラム（児童支援事業所ぷらみんぽーと　多機能型重症心身障害※放課後等デイサービス）					
			作成日	2025 年	2 月 19 日
東京リハビリテーションセンター世田谷開設理念	「すべては患者さん・利用者さんのために」を院是・団是とする南東北グループは、地域の皆様とともに、“住み慣れた地域で、生涯いきいきと、安心して暮らせる地域リハビリテーション・ケア体制”の構築をめざします。				
支援方針	”できた”と思う気持ちを大切にし、”やりたい”を引き出す支援を提供いたします。 医療的ケアが必要であっても集団の中で安全に楽しく過ごせるよう支援します。				
営業日	平日のみ（年末年始12/31～1/3は休業）				
サービス提供時間	学校終了後	9:30～18:30まで ※学校終了時刻に合わせてサービス提供します。	送迎実施の有無	あり	迎え：学校は世田谷区内の特別支援学校に限ります。光明学園は徒歩でのお迎え。
	学校休業日	9:30～18:30まで ※送迎利用の場合は11:00～17:00			送り：世田谷区内全域。帰宅は17:30に施設出発になります。
家族支援	相談：随時受け付けます。健康面は看護師が相談を承ります。 レスパイト支援：キャンセル待ちになりますが契約曜日以外の利用が可能です。 前々月に利用日のアンケートを取ります。新たに医療的ケアが増えたなどの理由で学校の登校頻度が少ない場合は9:30より預かります。 短期入所との連動：センターの短期入所と連動し、利用日が重なる場合は保護者を介さず放デイ⇨短期入所の利用ができます。		移行支援	・センター内の短期入所や生活介護を併用・移行するには職員の見学・情報共有を行っております。外部の移行施設においても家族の希望に応じて情報提供を行います。 ・お子さん自身や保護者の希望などを考慮しつつ年齢や発達段階に合わせたサービスの提案をします。	
地域支援・地域連携	相談支援事業所や学校・他の放課後デイサービスとのサービス担当者会議への参加。児童相談所・医療機関などの関係機関と情報共有を行っています。		職員の質の向上	外部研修：事業所に隣接している世田谷区福祉人材育成・研修センターの研修の中心に外部研修を受講しています。 内部研修：高齢者施設・障害者施設（成人）・病院と複合型の施設の強みを活かした15種類の委員会が横断的な研修を行っています。また、放課後等デイサービスとして職種ごとに企画し実施しています。	
主な行事等	季節の絵本をテーマにした活動（月替わり）・ハロウィン・クリスマス・長期休暇期間（うめとぴあカフェ外出）・避難訓練 センター全体で行う“うめとぴあフェスタ”				

支援プログラム（児童支援事業所ぷらみんぽーと　多機能型重症心身障害※放課後等デイサービス）		
		支　援　内　容
本 人 支 援	健康・生活	<p>緊急時対応：てんかん発作やアレルギーなどお子さんごとの疾病に伴う健康状況の変化について看護師が聞き取りを行います。個別支援計画に緊急時の対応について記載し保護者と共有します。お子さん自身で処置ができる医療的ケアに関しては自立できるよう段階を作り支援をしていきます。</p> <p>日常生活動作の自立：おやつ・給食などお子さんの嚥下状況に合わせた食事の形態で提供します。食具の使い方・姿勢・スピードなど自分で食事を食べれる経験を増やしていきます。必要に応じて排泄リズムを掴み適切なタイミングでトイレトレーニングを行います。</p>
	運動・感覚	<p>運動：プログラムによりますが室内の運動スペースを活用し20～30分程度の運動の時間を設けています。ブランコ・すべり台を自分で選択し遊びます。</p> <p>感覚：スヌーズレンや足浴などを通して五感を刺激する活動を提供します。</p> <p>姿勢：車いすから降りる機会を作ります。姿勢の崩れやすい・筋緊張が強いお子さんに対し専門職からアドバイスを受けながら適切な姿勢が取れるよう環境設定を行います。</p> <p>歩行：お子さんの状態に合わせ"活動の部屋からトイレまで"など歩行の機会を設けます。</p>
	認知・行動	<p>見通し：スケジュールを提示し、はじまりの会で確認をしています。お子さんに合わせて絵カードや写真・現物など特性に合わせて対応しています。</p> <p>行動：問題行動に注目せず”できた”ことに注目し、具体的に褒めていくことで良い行動を増やしていきます。</p> <p>些細な動作も見逃さず自分で最後まで”できた”という達成感を支援します。</p> <p>マッチング：友達や大人の名前・ものの名称・色等、お子さんが見える角度でゆっくり丁寧な口調で伝えることで、名称の意味理解を勧めていきます。</p>
	言語・コミュニケーション	<p>コミュニケーション手段：ジェスチャーや指差し、絵カード、写真等、文字盤など子どもにとって分かりやすい方法でコミュニケーションを取っていきます。大人の声かけはなるべくゆっくり短く丁寧な口調でお伝えします。</p> <p>発信：表情・瞬き・呼吸など小さな表出をキャッチし返答することで発信する気持ちを高めます。</p> <p>対人コミュニケーション：他児とやりとりできるよう大人が間に入って子ども同士の関わりを代弁します。</p> <p>意思決定支援：2択の回答から選ぶ機会を作り次第に選択肢を増やしていきます。自分で決めたことを達成した経験を積み重ね意思表示に自信をつけていきます。</p>
	人間関係・社会性	<p>対人意識：活動など注目する場面で大人に視線を向けられるよう環境設定を行います。友達が行う場面では意識が向くような声掛けをします。</p> <p>伝え方：年齢・発達段階に応じて年下の手伝いをする、大人への伝え方等を知る機会を作ります。</p> <p>自己肯定感・達成感：大人が肯定的な態度で接することで、認められた経験から自己肯定感を高めます。お子さんに合わせた役割を依頼し、褒められる経験を増やします。</p> <p>感情表出：感情を大人に代弁してもらうことでお子さん自身が自分の気持ちに気付く機会を設けます。</p>